



2021年3月29日

各位

会社名 INCLUSIVE 株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤田 誠
(コード番号：7078 東証マザーズ)
問合せ先 管理部長 本間 紀章
(TEL 03-6427-2020)

2021年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年3月29日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年2月9日に公表しました業績予想を修正することとしましたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 業績予想（連結）

2021年3月期 通期業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	1,365	2	11	△11	△4.59
今回発表予想（B）	1,375	25	36	17	7.15
増減額（B-A）	9	23	24	28	
増減率（%）	0.7	-	215.0	-	
（ご参考）前期実績 （2020年3月期）	1,504	266	258	167	74.68

2. 業績予想の開示理由

(1) 業績予想修正に至った理由

2021年2月9日に開示した業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続する仮定のもと、保守的に見積もっておりましたが、2021年3月期の業績が前回開示の業績予測の想定を上回る見通しですので、上記の通り通期の業績予測の見直しをいたします。

(2) 業績予想の具体的な背景

当社グループは、「必要なヒトに、必要なコトを。」を企業ビジョンとして、インターネットを通して事業を展開する雑誌出版社やテレビ局などのメディア企業や、ネットを通じたブランドコミュニケーション強化ニーズを持つ事業会社に対して、様々なソリューションを提供する事により、事業規模を拡大してまいります。具体的に

は、情報発信主体であるメディア企業のインターネットサービス事業の支援を行う事や、インターネット上で情報を発信したいと考える企業を支援する事でビジョンを実現してまいります。中長期的な戦略として、地域の情報発信者や個人の情報発信支援を強化しており、地域や個人の情報・サービスのデジタル上での支援展開も推進し、多様なビジネスモデルやソリューションを提供する事で、社会全般に価値を還元していける企業となる様、事業展開を行っております。

2021年1月には緊急事態宣言が再発令され、2021年3月まで継続するなど、事業環境は未だ不安定な状況が継続しており、昨年度の水準にまで回復はしておりませんが、昨年後半より事業環境は緩やかに回復基調を維持している状況です。これらの環境を鑑み、メディアマネジメントサービスについては、新規の取り組みの獲得を進めるとともに、企画力・コンサルティング力の更なる強化を通して既存クライアントメディアの収益力強化を行っていくことで、顧客あたり売上高の維持を図っております。広告運用サービスにおいては、メディア各社の収益力強化ニーズは引き続き強いことから、取引先メディア数を拡大させることで、売上高を再度成長基軸へ移行させる事を想定しておりましたが、取引先メディア規模成長の鈍化が発生したことから、前回予測時よりも軟調な推移となる見通しです。プロモーション企画・PRサービスについては、特に既存顧客へのコンサルティングを強化する事で、アップセルの実施を継続的に行っております。エンジニアリングサービスについては、比較的広告市場の影響を受けづらい領域であることから、引き続き新規案件の獲得を進めてまいります。また、ニュースレターサービスとして2021年2月にはSNSメールマガジン株式会社を買収し、個人課金ビジネスの展開を開始したことから、今回発表の業績予想への反映を行っており、売上高、利益ともに押し上げる結果となりました。

コスト構造についても固定費削減の取り組みを継続しております。直近の取り組みとして、今期については取締役報酬の減額、本社オフィス移転の凍結、地方オフィスの移転・閉鎖を実施し固定費削減の取組みに既に着手しております。一方で、人材採用や当社認知改善のための広告宣伝の取組みについては、更なる成長の為に欠かせないことから、これまで以上に積極的に費用を投下しております。

なお、今期についてはリモートコミュニケーションが取りやすい環境づくりや密の回避を意図した、本社改装に着手したことから、一次的に支出が増加いたしました。以上のことから、2021年3月期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続する仮定のもと、特に影響を受けると想定されるメディアマネジメントサービス、広告運用サービスならびにプロモーション企画・PRサービスの領域については、引き続き見通しを保守的に見積る一方で、SNSメールマガジン株式会社買収の影響を考慮いたしました。また、研修採用、広告宣伝、オフィス改装などの領域について、今期中の支出見積もりを精査した結果、通期予算を修正し、開示することとなりました。

以上の結果、2021年3月期通期業績（連結）といたしましては、売上高1,375,089千円、売上原価703,106千円、販売費及び一般管理費645,996千円、営業利益25,985千円、経常利益36,017千円、親会社株主に帰属する当期純利益17,422千円を見込んでおります。

3. その他

上記の業績予想につきましては、本資料の公表時点において入手可能な情報及びその業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上